

申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	教授	氏名	助川 たかね
調査研究課題	設計段階の総合的表現手法の可能性とデザイン教育への応用					
調査研究組織	氏名		所属・職		専門分野	役割分担
	代表	助川たかね	造形デザイン学科 教授		経営戦略 都市計画・ デザイン	全体計画管理・実施
	分担者					
調査研究実績の概要	<p>研究の学術的背景 近年の技術革新によって、これまでアイデアに留まっていた形状を具現化する技術は急速な進歩を遂げている。そのため、ほぼすべての形状を実現可能なものにした技術の出現によって実現されるデザインの思想・意匠・構造・影響を総合的に伝える高度な能力がデザイン現場で求められている。デザインの可能性が急拡大している一方で、その表現手法は三次元解析や施工技術の進歩に追い付いていない。実現可能な形状が複雑さを増す今、表現手法の可能性を探ることは喫緊の課題である。</p> <p>本調査研究の目的 本研究の第1の目的は、先行研究における世界的建築家ザハ・ハディド (Zaha Hadid) の作品とその表現手法の検証過程で抽出された事実に基づき、さらにその対象範囲を広げることで新たな可能性を探り、より普遍的な手法を構築することにある。装飾品から都市といったスケールの境界を越え自在に行き来しながら、いかなる分野にあっても専門家としてデザインを手掛けてきたハディドは、初期の作品から一貫して表現手法としてのドローイングにその可能性を見出していた。前衛的かつ複雑すぎると陽の目を見なかった設計は技術革新とともに具現化されるようになったが、その際、ドローイングが予言していた世界が現実に出現しているという事実が、先行研究でも実証されている。この数年、その表現手法を再評価する書籍の復刻も続いたことで、膨大なドローイングからその可能性を分析し、デザイン教育現場の改革につなげることを第2の目的とした。</p>					

先行研究

本研究は、自身の先行研究において、かつてはその複雑さのために「Unbuilt（建てられない）」建築家と呼ばれていたハディドのアイデアが技術革新により凄まじい勢いで実作となっている事実を調査するなかで着想した。当初は作品間に似たものが存在しない「独創性」に着目した研究であったが、調査分析の過程で「流動性」という共通項があることに注目した。流動性を核とする設計思想や構造・意匠・影響などは、設計段階での平面図、立面図、断面図、模型、そして形状を正確に伝えるCGを使っても表現し切れない。「Built（建てられる）」建築家となったハディドの実作を、絵画としても評価され二次元でありながら総合的な表現手法でもあるドローイングと比較検証するなかで、ドローイングの更なる表現可能性に着目するに至った。

期待される成果

ハディドのデザインに共通する流動性について、彼女は「設計とは、土地や歴史が持つ文脈やエネルギーの流れ方、さらに人々の動きにもたらず変化までも捉えたいうで作品に束ねて行くことであると考えた」という仮説に基づいたうで、そのドローイングを分析する先行研究は国内外で発表されていない。ハディドは、日本でもようやくその存在が認められかけた論争の渦中、急逝した。30年間に膨大な作品を残したとは言え、今後新規作品が設計されることはない。本研究で蓄積・分析されたデータベースはデザイン分野の研究やカリキュラム改革に資するものと期待できるため、現存する資料を早期に入手し、整理分析することには大きな意味がある。建築を中心に様々な作品の限界を越えて来たハディドのドローイングを分析することで、伝えるための表現手法についての議論が本格化し教育改革につながることを期待する。

調査の実績 の概要

現地調査による検証

「Roca London Gallery」は、スペインで100年前に創業された衛生陶器の世界的企業Roca社のショールームである。集合住宅の1階部分にありながら、その空間はザハ・ハディドの建築作品としての存在感を放っている。企画段階でのドローイングは、「水」が様々な姿を変える流動性を描いているが、実際に建物内部に入ると、曲線の重なりと流れ、そこからつくられる空間の広がり、まさに流動的に展開されていた。ハディドが本拠地としたロンドン市内には、他にも複数の作品が建設されているが、手描き、近作ではCGによるドローイングのいずれもが、その室内外の空間と人の流れを表現していた。制作現場および教育現場でも有効な表現手法として、応用を目指したい。



drawings©Zaha Hadid Architects

photographs©Takane Sukegawa



成果資料目録

特になし